

◇ 及 川 保 君

○議長（山本浩平君） 続きまして14番、及川保議員、登壇願います。

〔14番 及川 保君登壇〕

○14番（及川 保君） 14番、及川です。まず冒頭に10日未明の集中豪雨、被害に遭われた町民の皆さんに改めてお見舞い申し上げますとともに、対策本部長以下町担当職員皆さんに対しまして心からの労いの言葉を送りたいと思います。本当にご苦労さまでした。

私は今回の一般質問で、同僚議員のほうからも実はこの人口減少問題含めて同様の質問がございました。若干重複する部分もあろうかと思いますが私なりの観点からお伺いしていきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

まず1点目です。東胆振広域圏定住自立圏構想についてでございます。

（1）、1市4町の形成協定を12月頃としていましたがその経過と今後の見通しについて伺います。

（2）、さまざま分野で連携し人口の定住を図るとしているが中心市の役割が非常に重要と考えますが見解を伺いたいと思います。

（3）、町内産業振興の観点からどのような連携が必要と考えておられるのか伺います。

（4）、財政面の優遇措置の具体的な内容を伺いたいと思います。

○議長（山本浩平君） 戸田町長。

〔町長 戸田安彦君登壇〕

○町長（戸田安彦君） 東胆振広域圏定住自立圏構想についてのご質問であります。1項目めのこれまでの経過と今後の見通しについてであります。平成21年に国の施策として定住自立圏構想が全国展開されたのを受け、東胆振1市4町で構成される東胆振広域圏振興協議会において23年11月に東胆振広域圏定住自立圏構想検討会の設置を決定し東胆振圏域としての定住自立圏構想の推進について検討を始めたものであります。検討会における意見交換のほか既に定住自立圏を形成している圏域へのアンケート調査や視察、北海道からの情報収集などを経て本年5月に開催された東胆振広域圏振興協議会総会において東胆振広域圏定住自立圏構想の推進について1市4町の合意形成がされました。この合意形成を受け7月16日に定住自立圏形成に向けた中心的な役割を担う苫小牧市が中心市宣言を行い、連携町と中心市がそれぞれ1対1で締結する定住自立圏形成協定の締結に向けた協議がスタートしております。今後は連携して取り組む分野やそれぞれの役割分担を定める定住自立圏形成協定の内容についての協議を引き続き進め、12月会議において形成協定の議決をいただきたいと思いますと考えております。また協定締結後は各市町から関連する分野の関係者や地域の代表者が参加する懇談会において圏域としての将来像や形成協定に基づき推進する具体的取り組みなどを記載した共生ビジョンを中心市が作成することとなっております。

2項目めの中心市の役割の重要性についてであります。定住自立圏構想は中心市と近隣市町村が相互に役割分担し連携、協力することにより圏域全体で必要な生活機能を確保し地方圏への人口定住を促進する自治体間連携の取り組みであります。東胆振圏域で考えた場合にはさまざまな都市機能を有する苫小牧市の役割とリーダーシップは重要であると認識しておりますが、圏域全体として魅力ある地域として生き残っていくためには4町が持つさまざまな資源を活用していくことも必要不可欠であることから近隣市町村の役割もまた重要であると考えております。

3項目めの町内の産業振興の観点から必要な連携についてであります。定住自立圏の連携から得られる効果として交流人口の増加による町内における商機の拡大や町外における新たな販売機会の創出、販路の開拓、圏域のブランド化など町内産業の振興につながる事業が定住自立圏の枠組みでも実施できるよう協定締結共生ビジョンの策定に向けて協議を進めてまいりたいと考えております。

4項目めの財政面の優遇措置についてであります。定住自立圏構想推進のための地方財政措置につきましては共生ビジョンに記載されている事業に要する経費が特別交付税措置されるほか、事業によっては補助率のかさ上げや補助事業等の採択に当たって一定程度の配慮が行われるなどの措置が受けられるものであります。

○議長（山本浩平君） 14番、及川保議員。

〔14番 及川 保君登壇〕

○14番（及川 保君） 14番、及川です。およその状況はわかったのですが、長ったらしい事業内容になっているのですけれども、実はもうかなりたっているのです。この制度が出てきたのが平成21年ですから5年です。23年から協議していたみたいなのですがここまで遅くなった理由は何ですか。

○議長（山本浩平君） 高橋総合行政局企画担当課長。

○総合行政局企画担当課長（高橋裕明君） 制度的には平成21年から国のほうで出された施策として定住自立圏構想というものがございました。それでこの東胆振圏域におきましては古くから振興協議会という組織を持ちまして圏域の振興に努めてまいっております。その中で21年にいただいた施策の動向を見ながらということがございまして、その中で全国各地に広がっていく状況の中でこの圏域でもこの取り組みにどのようなメリットがあるのかですとかそういうようなものを23年から検討を始めたという経過がございまして、その後答弁させていただいたとおり各種調査ですとか実績効果などを調べながら1市4町で合意に至ったという経緯で時間がかかったものでございます。

○議長（山本浩平君） 14番、及川保議員。

〔14番 及川 保君登壇〕

○14番（及川 保君） 14番、及川です。この内容を精査をしてみますと東胆振1市4町、昔でいえば合併前は1市6町あったのですけれども、当時から私はこの東胆振圏の苫小牧市というのは道内にあっても中核都市でありますけれども、言葉ちょっと語弊があるかもしれませんが1市6町であった時代からは兄貴分的なつながりをもってまちづくりを進めていけないものかというような思いを実は持っていたのです。今ここにきて人口の減少を国が非常に憂慮してさまざまな施策を行っているのですけれども、その一環であるというふうに思うのですけれども、中心市になる苫小牧市の役割というのは非常に大きいものがあるのではないかと私は思うのです。そのあたりの捉え方はどういうふうに考えていますか。

○議長（山本浩平君） 高橋総合行政局企画担当課長。

○総合行政局企画担当課長（高橋裕明君） 今ご質問にありましたように苫小牧市はこの圏域での中心的な役割を担ってきておりまして、白老町におきましても買い物ですとか医療ですとかそういうものを苫小牧市に行って利用しているというような状況が見られます。この定住自立圏構想におきましては中心市を中心にしてその周辺のまちがそれぞれに完結したそういうようなものを備えられないというような現状から圏域が連携して、その中で定住し生活を一定程度安定したものにしていこうというねらいがございまして、この圏域の中で人口が減少していかないようにという取り組みでございまして苫小牧市を中心にして定住を図

るという意味では苦小牧の役割が大きいものというふうに考えております。

○議長（山本浩平君） 14番、及川保議員。

〔14番 及川 保君登壇〕

○14番（及川 保君） 14番、及川です。そのとおりだと思うのですが、私はそうはいいながらもさまざまな観点からいったら今課長がおっしゃったように、要はまちの購買力といいますか、どんどん疲弊していく状況はやっぱり都市に買い物客が流れるという状況がずっと長い間まちの状況としてあるわけです。そういう中で先ほど町長が答弁されていましたが販売機会の喪失だとか販路の開拓だとかいろいろおっしゃっているのですが、その部分と競合することが多々あるかと思うのです。そのあたりの捉え方はどういうふうに考えていますか。

○議長（山本浩平君） 高橋総合行政局企画担当課長。

○総合行政局企画担当課長（高橋裕明君） この定住自立圏ができて初めてそういうことが高まるということだけではなくて、これまでも苦小牧市との連携の中で例えば苦小牧市が行っているまちなか交流の関係で各周辺町の物産を集めて販売を行ったりとかそういう交流は続けてきておりますけれども、さらにそういうことを強化して各周辺のまちが持っている資源を活用して販売を高めたり、もしくは苦小牧の市民がこの周辺町に来て買い物をしていただくとかそういうような取り組みを行うことで強化していこうというねらいがございます。

○議長（山本浩平君） 14番、及川保議員。

〔14番 及川 保君登壇〕

○14番（及川 保君） わかりました。17万の都市といえどもさまざまな課題等を抱えてはいると思いますので、白老町との共生ビジョンをつくっていく過程、これからつくっていこうというのは共生ビジョンですよね。各分野にわたって協議を進めて、例えば医療なら医療を連携して取り組んでいくということだと思っただけけれども、今北海道ではかなりの都市が市町村がこの定住自立圏構想に乗っかって進めている状況です。そういう中で我がまちも苦小牧市との関係でこの構想を進めていくということなのだけれども、今協議中ではあると思っただけけれども、おおよその概要でもいいのですけれどもどのくらいの分野で連携をしていけるのか。この部分は今現在答えられますか。

○議長（山本浩平君） 高橋総合行政局企画担当課長。

○総合行政局企画担当課長（高橋裕明君） ただいま協議を進めているところでございますけれども、この定住自立圏構想において協定もしくは共生ビジョンに盛り込む事項といたしましては大きくは生活機能の強化に関する事、それから圏域の結びつきやネットワークを強化すること、それから3点目に圏域のマネジメント能力を強化することという大きな3項目がありまして、その3項目それぞれ項目を取り出して作成していくということでございます。例えば生活機能の強化と申しますのは医療ですとか福祉ですとか教育というような観点での取り組みになります。結びつきやネットワークにつきましては地域公共交通ですとか情報化、あとは移住促進とかそういうような内容でございます。そして3つ目の圏域マネジメント能力の強化といたしましては人材の育成ですとか人材確保もしくは圏域の職員の能力向上といったような項目を盛り込むという予定になってございます。

○議長（山本浩平君） 14番、及川保議員。

[14番 及川 保君登壇]

○14番(及川 保君) 14番、及川です。大体そのようなことになるのかと実は私も考えていたのですけれども、限定されてなかなか競合してというかそういった部分が出てくる中で限られたものになっていくのだろうという思いで実はおりました。もともと先ほど答弁にあったように医療の部分でいえば苫小牧市とは1次、2次医療の関係でそういった面では深めておるのです。ところがなかなか今までそういった連携したものが、先ほどちょっとあったような答弁ありましたが、現実には苫小牧市と今までどのような連携した事業と申しますか、連携したものがありませんか。

○議長(山本浩平君) 高橋総合行政局企画担当課長。

○総合行政局企画担当課長(高橋裕明君) これまでの事業ということでございますけれども、まず先ほど申しましたように地場産品との関係では具体的には今なくなりましたけれどもエガオで東胆振の物産展を行ったりですとか、医療というお話が出ていましたけれども救急医療の啓発、普及、2次医療圏の救急啓発のPRですとか医療体制の運営経費ですとか小児救急医療の支援事業そういうものを連携してやってございませし、そのほかに保健サイドでは今検討中ではございますけれども成年後見制度始めそういう連携事業の検討は実際に進めてまいっているところでございます。

○議長(山本浩平君) 14番、及川保議員。

[14番 及川 保君登壇]

○14番(及川 保君) 私自身はこの構想は5年間という限定のもとで進めているようなのですけれども、何とか隣である苫小牧市との関係を深めていくためにはこの事業というのは非常に有効だというふうには感じているのです。問題なのは5年間という国の示した制度ですからこのことは動かせないのではないかと申すのだけれども、今後継続してこれが進められていかなければ余り意味がないのではないかと私は思うのです。その考えはどうか。

○議長(山本浩平君) 高橋総合行政局企画担当課長。

○総合行政局企画担当課長(高橋裕明君) 5年間の話でございますけれどもこの施策として継続される限りはそのまま定住圏の考え方で圏域として継続するものというふうに考えています。現在策定しております共生ビジョンの期間を5年としているということでその後につきましてもまた更新継続ということでございます。

○議長(山本浩平君) 14番、及川保議員。

[14番 及川 保君登壇]

○14番(及川 保君) 5年後以降も継続していく考えだということで押さえました。この制度でいけば優遇措置というのは5年後以降はどのような形になりますか。

○議長(山本浩平君) 高橋総合行政局企画担当課長。

○総合行政局企画担当課長(高橋裕明君) 制度的につきましてはこの後の国の施策がどういうふうになるかわかりませんが継続するものということで考えております。

○議長(山本浩平君) 14番、及川保議員。

[14番 及川 保君登壇]

○14番(及川 保君) 14番、及川です。この制度は非常にまちにとっても進めていかなければならないものだと私も感じておるのですけれども、ただし苫小牧市自体今17万都市ですけれども苫小牧市も数

年後には減少に転じるだろうという予測が実はされているのです。そういった中での定住自立圏構想なのですけれども、そういう意味においては一緒にまちづくりを進めていく、補うところは補い合いながら進めていくというのは私は賛成なのですけれども、この計画が隣の登別市の部分、この部分は私は非常に大事な部分だと。ただし登別市は今西胆振圏の位置の中でもう既にこの事業を進めております。そういった中で今後の登別市と白老町との関係このあたりはどういうふうに押えていますか。どういうふうにするか考えはありますか。

○議長（山本浩平君） 高橋総合行政局企画担当課長。

○総合行政局企画担当課長（高橋裕明君） 登別市との関係でございますけれども現在も登別市とは観光の関係での連携ですとかごみ処理とかそういう広域処理の関係で連携しております。そのことにつきましては継続して進めていくものと考えておりますし、白老の位置的な関係で真ん中にあるということがございすけれども、今回の東胆振圏域では苫小牧市を中心とした少しでも住みよい圏域をつくって定住を目指すということで考えております。

○議長（山本浩平君） 14番、及川保議員。

〔14番 及川 保君登壇〕

○14番（及川 保君） 登別市との関係ですけれども、今お話ありましたように白老町のごみ焼却炉が老朽化して大変困難な時代が実はあったのです。ここでお話していいのかわかりませんが、登別市さんが、当時上野市長だったのですけれども手を差し伸べていただいて一緒にやるのではないかとということで今の登別市のクリンクルセンター、これは今も白老町も建設費の支払いもしながら進めておるわけがあります。そんな中で今観光の話もありましたが登別市との関係というのはさまざまな面で実は歴史が古いのです。さらに一次産業でいえば胆振中央漁協これも登別と今一緒にやっています。この意味でいえば私は登別市との関係が非常に大きいというふうに思っているのです。産業の部分でいけば農協はJA苫小牧広域農協です。こういう形では股裂きのような状況になっているのですけれども、白老町としてはこのこと自体をそんなに大きな問題として捉えなくてもいいのですか。私は以前に非常にどちらかに偏らなければだめではないのかというご意見を申し上げたことがあるのですけれども、今にしても思えば逆にそのことが結びつきという面ではさまざまな面でよかったというふうには思っています。

それで苫小牧市との今回の定住自立圏構想であります。この構想の中で一次産業の意味でいえば畜産業、樽前牛というのか苫小牧黒毛和牛ありますよね。白老町が白老牛をブランド化して今進めておりますけれども絶対数が不足しているというような状況の中で、もう随分前にも質問したことあるのだけれども苫小牧市の黒毛和牛と一緒にした取り組みをできないものかと。当時は非常に難しい課題があるという答弁をいただいていたのですけれども、今現在の状況もやはりそのような状況なのかどうか。またそういうことを打破して一緒にやっていけるような雰囲気がつくれないのか。これはまちの問題ではないのです。農協の考え方で決まっていくとは思いますがそのあたりの関係をどういうふうになりますか。

○議長（山本浩平君） 本間産業経済課商工労働観光・営業戦略担当課長。

○産業経済課商工労働観光・営業戦略担当課長（本間 力君） 管内の黒毛和牛の取り組みに関しましては白老牛としてはブランド商標管理団体、白老牛銘柄推進協議会というものは組織されてブランド牛の推進に努めておりますが、当初より定義ということで白老町内で肥育された部分ということで白老牛はくくりをさせていただいています。非常に当初からそういう意味での取り扱いについては難しいという状況は出てお

りますし、また銘柄推進協議会内には当然のことながら地元白老支所を通じて農協さんが参画いただいています。当面としては今白老牛は定義上のブランド強化を推進しているということで管内のブランド牛としての取り扱いの連携までのどういった方向性かというのは見出せていないのですが、今後はそういった部分の取り組みに関しても協議はしていかなければならないのかと思っておりますけれども、まずもって白老牛を中心とした担当課としましてはそういった形で生産体制、基盤体制等を今後も推進してまいりたいというふうに考えております。

○議長（山本浩平君） 14番、及川保議員。

〔14番 及川 保君登壇〕

○14番（及川 保君） 私なりの考えなものですから非常に難しい部分があるということなのです。ただ広域という部分からすると、今この定住自立圏構想、せっかくここにきてこういう国の制度ができたわけですから産業全てのそういったことも含めてぜひ苦小牧市との関係をこれから深めていっていただきたいものだというふうに思います。

この制度は定住というくらいですから最初に答弁あったように何とかこの地域の定住を図ろうということでもあります。やはりどうしても考えてしまうのは17万都市と白老町1万8,000人くらいのまちとの関係でいって、やっぱりどうしても利が苦小牧市のほうにいつてしまうようなそういうものも感じないのではないのです。そのあたりは当然まちが大きい小さいは関係なく同等の関係で町民がよかったとこう思えるような状況をぜひつくっていただけるように町長にお願いしてこの部分の質問を終えたいと思います。

○議長（山本浩平君） 戸田町長。

○町長（戸田安彦君） この定住自立圏は定住することが大きな目的の1つでありますので、白老に限っていえば白老の町民が安心してこのまちに進めるといことが大前提でございます。先ほど登別市の話もありましたが、まずこの定住自立圏は東胆振、苦小牧を中心とした期成会が中心になっているというふうに考えております。登別市は登別市で西胆振の期成会でもう定住自立圏も始まっていますし、そういう意味では国の施策としてまず苦小牧市を中心とした東胆振の定住自立圏ということで白老町は東胆振に参画をしているということでもあります。

それとあわせて登別市とは今までもいろいろな分野で連携していますのでこれは今まで以上にまた連携を取りながら進んでいきたいというふうに思っております。

また定住自立圏は強みを生かして弱いところをそれぞれのまちが補っていくという言葉を使ったのですが、補っていくこともありますので特に白老は今象徴空間が2020年に開設しますのでそこら辺は大きな強みとして東胆振の観光の分野でも教育・文化の分野でも寄与できるかと思っておりますのでそういう話は定住自立圏の中で出ているということでございます。これは先ほどもお話したとおり町民がこれによって安心して定住できるような地域にしたいというふうに考えております。

○議長（山本浩平君） 14番、及川保議員。

〔14番 及川 保君登壇〕

○14番（及川 保君） 14番、及川です。次にこれも同じようなことなのですけれども人口減少と少子化対策について。1つ目が総合的対策として少子化対策を強力に進めるべきと思うが考えを伺いたいと思います。

2つ目、子育て世代の住宅建築応援事業これは昨年から行われておりますけれども、この進捗状況はどの

ようになっているかお伺いしたいと思います。

○議長（山本浩平君） 戸田町長。

○町長（戸田安彦君） 人口減少と少子化対策についてのご質問であります。1項目めの総合的政策としての少子化対策の推進についてであります。第5次白老町総合計画における重点プロジェクトの1つである教育・共育プロジェクトに位置づけられる子どもを産み育てやすい環境づくり、子ども・若者の可能性を伸ばす環境づくりの両プランに基づく事業である子育て支援施策や各種教育施策に加え定住促進施策など少子化対策に資する事業を白老町としても実施しているところでありますが、一元化された情報としての発信が十分でないことから今後は情報発信のあり方も含め雇用、定住、結婚、出産、子育ての全般にわたる少子化対策の推進について庁内で検討進めてまいりたいと考えております。

2項目めの子育て世代移住者等定住促進支援事業の進捗状況についてであります。今年度の実績では子育て世代で末広町2丁目及び同町5丁目の2件で応募があり8月末までに先行決定したところであります。今後におきましては土地物件の売買契約を締結し本事業申請を受け交付決定するものであり、以後2年以内での完成となる予定であります。

○議長（山本浩平君） ここで暫時、休憩といたしたいと思います。

休 憩 午前 11時55分

---

再 開 午後 1時00分

○議長（山本浩平君） それでは休憩前に引き続き、一般質問を続行いたします。

14番、及川保議員。

〔14番 及川 保君登壇〕

○14番（及川 保君） 14番、及川です。午前中はちょっと端折りすぎまして、じっくりやりたいというふうに思います。人口減少と少子化対策であります。ことしの4月5日でした、NHKの中で特別番組がありまして、タイトルが地方から女性が消える社会という番組でありました。その後から連日のように人口減少の問題が取り上げられていまして、最近ちょっと下火になっているのですけれどもそういうような状況でありました。この番組は地方から大都市に若い女性が流れていくという状況と、都会の大学に行ってそのままそこで結婚して生活をしてしまう。この間の初日の同僚議員との議論の中にもありましたけれども、地方から女性が消える社会的なんて非常にショッキングな報道でありました。

この人口減少問題というのは今始まったわけではなくて、もうかなり以前からいわれていることでありまして、そしてさまざま対策を行政がやってきているのですけれどもなかなか効果として表れていないそのような状況があると思うのです。しかしながらそうはいってもいずれ成果が出てくるであろうという確信のもとでまちづくりを進めていかなければ、まちの責務としてやらなければいけないと私は考えているのです。結果を今求めるのではなくてそういうことを念頭に置いてまちづくりを進めていかなければいけないという思いであります。

先般の質疑の中でわかったのですけれどももう一度私のほうから。我がまちの人口減少もかなりのスピードで今進んでおります。こういう状況の中で役場全体が人口減少と少子化問題を恒久的な対策を講じていくべき新たな部署といますか、例えば今あるような総合行政局のようなところで全体の人口減少問題を捉えてまちづくりを進めていくと、こういうことが私は大事なことではないかと。個々にいろいろな政策をやる

のですけれども単発的などというふうには、町民もそうであろうし捉えられない部分が実はあるのです。そのことについてもう一度考え方をお聞かせ願いたいと思います。

○議長（山本浩平君） 白崎副町長。

○副町長（白崎浩司君） ご質問の少子化対策ということで先般の一般質問の中でも若干の組織的なご質問の中でお答えしていますけれども、非常に課題といいますかそこら辺が分野としては多岐にわたるといようなことで、1つの部署でそれを抱えるというのは非常に難しいだろうと思っています。ただ指令といいますか、少子化対策をどうまとめ、どう発信するかというようなことで指令的な部署といいますかそこら辺は今後担っていくところが必要なのかというふうには思っています。ただ1部署でということではなくて、それが専門的に所管しているそれぞれの担当課といいますか、情報を集約してどう発信するかというようなことでの組織化そこら辺は必要かというふうには思っていますので、そこら辺含めて今後の組織のあり方を検討していきたいと。

ただ組織だけに頼らず、既存の組織もそうですけれども、既存で抱えている部署がプロジェクトといいますかそういうような組織化の中で少子化対策をきめ細かく押さえた中で住民にも発信していくというような仕組みづくりが必要かというふうには思っています。

○議長（山本浩平君） 14番、及川保議員。

〔14番 及川 保君登壇〕

○14番（及川 保君） 14番、及川です。今おっしゃられていることは先般の質疑の中では横断的な取り組みをしていきたいという答弁だったと思うのですけれども、それがさまざまな子供対策といいますか、やっぱり若年層が減るといことは当然若者がいなくなるということですから、そういった政策も含めて念頭に置きながらまちづくりを進めているとは思っています。だけれどもそれがなかなかトータルとして総合的な部分でつながった例えば教育それから保健医療、福祉とかいろいろな産業、大事な部分そういった部分になかなかつながっていかない単発的なものが感じられてならないわけでありまして。若年層をいかにまちにとどめるかということになれば、当然今までやってきた企業誘致を図る、それから地場産業の活性化も含めてまちがしっかり後押ししていくとこういうことが若者が残って働く場ができて、そしてそこで結婚して子供が生まれて、またサイクルが繰り返されることが一番いいわけでありましてけれどもそういうことがなかなか難しくなっているからこそ今こういうことになっているのと思うのです。このことがなかなかうまく機能してない、されない、していかない。もう既にこういうことをいわれて長い年月がたっているのですけれども、なかなか効果として表れていない部分があるのですけれどもやっぱり産業振興というのは非常に重要な部分でだって今企業誘致を含めて取り組んでいる状況、それから産業の基盤の活性化含めてどのような対策をしているかその部分を含めて聞きたいと思います。

○議長（山本浩平君） 本間産業経済課商工労働観光・営業戦略担当課長。

○産業経済課商工労働観光・営業戦略担当課長（本間 力君） 企業誘致活動それから地場産業の取り組みでございます。まず企業誘致に関しましては定期的に私ども営業担当のほうで東京方面それから名古屋方面等と継続的にも取り組んでおります。5月にはナチュラルサイエンスが虎杖中学校跡地に進出することが決まりましたが、以後マッチングといいますか企業さんの今後の経営状態もありますので、少なからず感触のある企業はございますがこれがことし中とか来年早々とかというところまでは至っていない現状であります。これは引き続き取り組んでいきたいと考えております。



それから地場産業の育成に関しましてはとにかく定住人口の向上であったり、それから観光面からの交流人口の創出の中で地場のほうではやっぱり売り上げを含めた経営状況を改善向上させていく取り組みは実際のところはできる範囲で支援をやっている状況でございますが、まだまだ実態としては現代的には難しいという押さえであります。参考までに先日9月8日地元紙に掲載されていた捉えでいきますと企業の後継者不足が深刻化だということ、帝国データバンクの調査でございますけれども道内の後継者の不在率が72.8%ということで全国のワーストとなっております。帝国データバンクに聞きますと胆振管内、日高管内それから千歳、恵庭管内にいたしましても73.1%という全道平均よりも高い現状です。さらには白老町なのですが、サンプル数は少ないのですが83.1%という非常に高い後継者不足、不在率という数字が出ております。こういったところは地道にもこの状況を捉えて若年層の定住者または雇用こういうところのつなぎを何らかの方法を用いて取り組んでいかなければならないかという認識はしております。以上です。

○議長（山本浩平君） 14番、及川保議員。

〔14番 及川 保君登壇〕

○14番（及川 保君） 企業誘致はこれも長くいわれてきて町長以下頑張っって何とか誘致にこぎつけようということで頑張っってはおられると思うのだけれども、こういう日本全体の景気の中で簡単なことではないと私もずっと考えているのです。しかしながらだめだからやらないという話には絶対ならないのであって何とかこの企業誘致をぜひしっかりと取り組んでいっていただきたいというふうに思います。

今ナチュラルサイエンスの話がありました。これは私ども議会、常任委員会の中でも視察させていただきまして、やはり現地を見てさまざまなお話を聞いて、こうすると本当のその企業の状況がつぶさにわかって非常によかったと思っておるのです。このナチュラルサイエンス今5月といいましたけれども操業含めて今どのような状況になっているかお聞きします。

○議長（山本浩平君） 本間産業経済課商工労働観光・営業戦略担当課長。

○産業経済課商工労働観光・営業戦略担当課長（本間 力君） 今後の操業の日程でございますが、現段階では調印式時でお答えしました3年以内というところはまだ変わってございません。これまでの契約後の動きといたしますと実際虎杖中学校の住宅のほうを改修いたしましたして既に仮事務所的に社長含めて社員の方々が検討に入っております。イノベーションチームを組織いたしましたして、これからの設計に関しましては今後において設計プランニングを立てているという現状でございます。ただこれが年内なのか年度内なのか、社長のほうからもお聞きしますと慎重にいい建物を、そしてまた地域と連携した運営をしていきたい、営業していきたいというところの思いは私どもも伺っておりますので、そういった取り組みに今後も行政側として連携をしていきたいと思っております。ただ今の段階で基本設計等の時期というのはまだ具体的ではないということでご理解いただきたいと思っております。

○議長（山本浩平君） 14番、及川保議員。

〔14番 及川 保君登壇〕

○14番（及川 保君） ナチュラルサイエンス何とか早く、虎杖中の跡地なのですけれども早く操業に結びつけていただきたいというふうに思うものであります。

それから先ほど後継者問題が非常に大きくクローズアップされて、我がまちは81%を超えているのです。これはどういうふうに捉えていいのか。本当に厳しい状況がわかるのです。だから人口減少、少子化といいながら、その対策を講じてもなかなか一方ではそういった問題を抱える、そのあたりの状況をどういうふう

にして打破していくかというのはまちとしても非常に厳しいですよ。どのように考えますか。これからのまちづくりです。産業を活性化しようとしても一方ではそういった実態があるということになると。何とも言いにくいのですがそのあたりはどのように考えていますか。

○議長（山本浩平君） 高橋総合行政局企画担当課長。

○総合行政局企画担当課長（高橋裕明君） 非常に難しい問題だと思いますけれども後継者不足が現実には高いという数値でございしますが、それは昔からいわれていた面もありますが要するに今行っている事業を将来永劫に続けていけるのかというような不安を抱えていることからそういうものが出てきていると思います。そこをやはり希望、期待を持てるような産業形態に変えていかなければならないというふうを考えております。よくいわれる話ですけども現在の若者はいわゆる悟り世代だと。要するに先を見越してしまってそれ以上のことをなかなか行動に移せないということがございますので、町内において産業のためにまちのためにそういうチャレンジをしていくという希望、期待を持った環境や意識を変えていかなければならないというふうを考えております。その中で先ほどお話ありました。ナチュラルサイエンスですとか、もう1つは国立博物館が出来ますのでそのときには雇用が生まれると思いますので、雇用生まれた方がやはり町内に住んでいただいて、そしてそのためには総合政策としても住宅の問題ですとか教育・福祉の問題そういうものにきちんと対応できるように努めてまいりたいと思います。

○議長（山本浩平君） 14番、及川保議員。

〔14番 及川 保君登壇〕

○14番（及川 保君） 14番です。非常に厳しい状況であります。今高校を卒業していく若者対策、ハローワークは今庁舎内にはなくなりましたが、この一方で何か対策はしていないのですか。このあたりはどうですか。

○議長（山本浩平君） 本間産業経済課商工労働観光・営業戦略担当課長。

○産業経済課商工労働観光・営業戦略担当課長（本間 力君） 8月25日現在で求人件数が156件、人数でいけば379人という求人が出ています。また常勤雇用これは非正規も含めてなのですが101件、253人という求人が出ております。この数字自体が昨年来から100件前後とか常時続いているような現状から起きています。有効求人倍率も0.7ポイント台ということで入れかわりはありますが求人自体がなかなかマッチングできていない現状でございします。その中で先ほど議員からお話ありました新卒者の対策でございしますが、ハローワークの管轄ということもございまして自治体で何が出来るかということで昨年からは地元商工会とも新卒者の就職支援事業という形の中でどういった模索をということで検討してきました。そのような中来年の2月、3月頃になるかと思うのですが高校2年生を対象といたしまして地元企業さんを集めた合同企業説明会を実施していきたいと。これは3年生になった場合は就職活動に入りますので、それに入る前に授業の一環ということで2学年生にもっともっと地元企業を知っていただく、地元で就職をしていただくためにというところの企業側のアプローチも含めた中で合同企業説明会を今年度中に開催していきたいということで、地元の白老東高校さん、または北海道栄高校さんにもお声かけをする。または願わくば苫小牧エリアの高校にも呼びかけしながら多くの就職を活動を迎える方々にもっともっと白老の地場の企業を知っていただく上で取り組みをしていきたいと。これも初めての試みですので、できれば今回成功をもとにやっていきまして2年、3年と継続していきたいという気持ちで取り組んでまいりたいと思っております。以上です。

○議長（山本浩平君） 14番、及川保議員。

〔14番 及川 保君登壇〕

○14番（及川 保君） まちもそういう意味では若者の対策をいろいろと考えながらやっているのだということがわかりました。今何とか続けていきたいということでありますけれども、やはり結果を今すぐ求めるのではなくて、こういった事業というのは継続しなければ10年、20年後につながっていかないという部分がありますのでそのことも含めて頑張っ取り組んでいただきたいというふうに思います。

産業、雇用を含めて非常に厳しい実情があるのですけれども、この部分で町理事者はどういうふうにこれから産業興し企業誘致も含めて進めていかれるのか。この部分を産業と雇用の部分でお聞きしたいと思います。

○議長（山本浩平君） 戸田町長。

○町長（戸田安彦君） 今までもやってきている企業誘致もそうですし地元企業、産業の発展そして子育ての環境づくり等々も含めてこれからの少子化対策だと思っておりますので継続していきたいというふうに考えております。

北海道の中でも人口がふえているような地域は実は首都圏というか大きなまちの近くが如実に多いです。ベットタウンという形で。もしくは新聞に載っている限りでは一次産業で、やっぱり1次産業というのは家族単位で仕事をしているものですから3世代がきちんと住んでいて現象に歯どめをかけているところもありますので、白老も一次産業にも力を入れていけば子育て世代というか少子化問題に対する対策の1つにつながるかと思っています。それとやっぱり雇用の場がなければなかなか子育て世代には住んでもらえないなというふうに認識しておりますので企業誘致と地場産業の発展に力を注いでいきたいというふうに考えております。

○議長（山本浩平君） 14番、及川保議員。

〔14番 及川 保君登壇〕

○14番（及川 保君） 14番です。本当にまちづくりにおいて大きな課題、非常に難しい部分が多いのですけれども何とか活路を見出せるような状況をつくっていただきますように継続して頑張っしてほしいというふうに思います。

そして人口減少、少子化問題、若者にまちにとどまってもらうという状況をつくるには日頃まちが進めている安全・安心なまちづくりこれはやっぱり切っても切れないことになると思うのです。白老町の場合は町立病院が町長が決断しまして存続するということになりました。若い世代というのは我々も経験してきているのですけれども小さな子供を抱えているときというのはちょっとした風邪でも大変な思いで病院に連れていったりするのです。そういうことからするとやはり公的病院というのは、これから大きな課題は非常にたくさん抱えてはいると思うのだけれども、何としてもこの状況を少子化問題も含めて、あるのとないのとでは全く違うはずですからぜひこのことも含めて取り組んでいただきたいというふうに思います。それもやっぱり若者対策だと私は考えておるのです。どうしても財政運営の部分からしか物事見られない部分はあるのですけれども町長が決断をした以上は何としても病院問題はぜひ町民の本当に頼りになる病院になるように進めていかなければいけないと私自身も考えておる次第であります。

そこで安全・安心ということからやっぱり切っても切れない、離せないのが消防の体制です。火事もあるのですけれども救急の部分でちょっとお聞きしたいというふうに思います。全体の救急の状況は昨日の一般質問の中でも十分把握したのですけれども、毎年消防年報を消防のほうでつくっていただいて配布されてい

るのです。全体の救急の搬送だとかそういうものは十分把握はしているのだけれども、これを見ると意外と救急全体の件数は900件くらいとずっと変わっていないのです。昨年であれば944件の件数がありました。搬送人員でいけば875人なのですけれどもこの年齢層を見ると、ちゃんと年齢層を含めて年報にも載っているのです。高齢者と新生児、生まれたばかりから成人というところまでを見ると実は昨年の実績で317件おるのです。そういうことからすると救急は高齢者ばかりではない、救急車を利用する町民は高齢者ばかりではないのだとこれを見て感じた次第なのです。そこで今現在西部出張所もあるのですけれども本部でいえばこういう広範囲にわたっての細長いまちですからどのぐらいで着くというのは一概にはいえないと思うのだけれども、平均するとどのぐらいの要請があって現場まで到着する時間がどのぐらいかかっているのかお聞きします。

○議長（山本浩平君） 中村消防長。

○消防長（中村 諭君） 今のご質問にお答えします。昨年25年の実績では救急の出動が944件という数字は年報に出しておりますが、実際に出動件数が944件で救急の件数としては856件です。そのうち町内の病院に収まるのが32%くらいです。ほかには町外の病院に搬送している実態があります。町外も実は苫小牧方面、私どもでいうと東医療圏のほうに運ぶ搬送が71%、どうしても虎杖浜、竹浦方面の方では登別、室蘭の病院にかかっている方も多くおられます。その中では管外のうちの約29%が室蘭方向に搬送している状況なのですが、大体到着する時間にありましては国の平均でいっている7分から8分というのは白老町も同じなのですが、遠隔地にありましては当然その倍の時間がかかるのが実態であります。西部出張所のほうにも配置しておりますのでおおむね本部の消防署も移転して中央に移動した結果、出動の時間については平均的に短縮を図ったところなのですが実際に管外に搬送しますと苫小牧では行って帰ってくる時間が1時間30分から45分、室蘭方面に走ると2時間、この間救急車が町内にないという状況で2台運用なのですけれどもそのような形の中でさせていただいています。今実際には高齢者が64%ときの質問の中でもお答えしましたが残りにありましては議員のおっしゃるとおり成人だとか若い方、子供さんということでそれぞれの症状によって搬送先を決めているという状況でございます。

○議長（山本浩平君） 14番、及川保議員。

〔14番 及川 保君登壇〕

○14番（及川 保君） 現場から病院まで搬送する状況はわかったのだけれど消防本部から連絡が入って患者のところまでは平均7、8分で着くということでのいいのですね。消防本部も防災センターと一緒になったから隊員の皆さんも非常に働きやすいとか、町民のためには非常によい状況になったというふうには思うのですけれども、今いった現場から苫小牧なり室蘭なりに行く時間、2台しかないとなると2台出してしまうとその後体制がとれない、この状況の中では例えば登別市との関係で協定を結んでいるとかそういった状況では白老というのはだめなのですか。竹浦、虎杖浜だけの関係なのですか。

○議長（山本浩平君） 及川議員、人口減少と少子化対策につなげた質問を行っていただきたいと思いません。

○14番（及川 保君） わかりました。そういった体制はやっぱりしっかりとつくっていかないといけないのだろうし、そういったことをきょうまでやってこられているというのは十分理解するのです。

もう一方で町立病院はこういった新生児、乳幼児、少年、成人という中でやはりこれだけの方々も救急を利用しているのです。町立病院が救急対応をするという意味では指定病院になっているわけですからその状

況を事務長として押さえておりますか。

○議長（山本浩平君） 野宮町立病院事務長。

○病院事務長（野宮淳史君） 議員いわれますように町立病院は昭和 42 年 1 月に救急告示病院として道からの指定を受けております。その中で以後 365 日 24 時間、町立病院としては初期救急の体制をとりながら東胆振の医療圏との苫小牧市立病院さんとか王子病院さんとかそういうところの二次救急だとか高度医療機関の三次救急医療機関と連携をとって救急医療体制には対応しております。

そして平日の夜間及び祝祭日等につきましては常勤医師の先生が中心に当直をやるのですけれども、ほかに札幌医科大学さんとか医療人材派遣ドクターバンクから当直の先生を協力をいただきまして夜間につきましては医師 1 名看護師 1 名の体制によりまして救急体制をとってございます。

そういう中で先ほど消防長のほうから救急搬送の件もありましたけれども、町立病院にも救急搬送的には件数がふえてきている状況でございます。その中でも特に夜間につきましては町立病院の救急患者といいますとやはり発熱だとか咽頭痛、感冒だとか下痢だとか、吐き気とか消化器系の軽度な患者さんが多いのですけれども、その中で先ほど出ましたけれども高血圧とかめまいとかの高齢者の患者さんがふえているということも確かでございます。そういう中でうちにつきましては病状によりましてお医者さんの指示によりまして救急搬送があったときに、例えば脳溢血だとか脳梗塞だとか脳神経にかかわる病院だとか、心筋梗塞だとかそういう循環器内科、命にかかわるものにつきましては苫小牧市を中心とする高度医療機関に送って、その後急性期の治療が終わった場合はうちのほうに帰ってきていただく。何回もお話していますけれども回復期医療というものを務めているところでございます。

○議長（山本浩平君） 中村消防長。

○消防長（中村 諭君） 登別との協定の関係なのですが宇虎杖浜地区、それから登別にありましては駅前地区、そこをお互いに補完し合おうということで出ている現状にあります。

それらの先ほど説明でちょっと不足の部分がありました。実際には救急車は 2 台配置しておりますが予備車として 1 台あります。白老町は 3 台保有しております。その予備者にありましては常に同じ積載品を積んでおりまして出動態勢はとっております。したがって 2 台が出動した、または多数の傷病者が出たというような交通事故の場合はもう 1 台を運行すると。この運行に当たりましては非番を招集したり消防隊を急遽入れかえて編成するというのは年間数件実際に出動しております。以上です。

○議長（山本浩平君） 14 番、及川保議員。

〔14 番 及川 保君登壇〕

○14 番（及川 保君） 14 番、及川です。この若者対策をまちづくりの中で進めていくということでは今いったようなシステムをきちんとされていると、こういうことも町民にわかっていただきながらやっていくということも私は若者対策をしていく中で非常に大事な別問題として放っておけないことだと思うのです。というのは子供を産む、育てる、親は大変な思いで育てている部分があるわけですから、それは皆さんも経験してこられているわけですから十分わかっているとは思いますが、そのことも踏まえてぜひしっかりとこの部分も取り組んでいただきたい。病院のほうもそうですけれどもこれからもぜひしっかりと取り組んでいっていただきたいというふうに思います。

それから先般の議会で議論があったのですけれども、町長が選挙公約で中学生までの子供の医療費無料化ということの議論がありました。その内容はわかっておるのですけれども、今一度やはりこの部分がせつ

かくいい施策として示されているわけだから早く取り組むべきなのです。そうでなければどんどん後ろにいつてしまうわけです。それがまた効果としてはずれていく部分があるわけですから本当にこの部分は何としてもやって進めていただきたいというふうに考えるのですけれども、やっぱり財政問題が一番大きなネックとしてあるのかどうかその部分をお聞きします。

○議長（山本浩平君） 白崎副町長。

○副町長（白崎浩司君） 今ご指摘の医療費の無料化、前にも議会の中でもご答弁してはいますが、今一番考えなければならぬという状況がやはり財源問題ということで、前にも町長が答弁してはいますが、そういう趣旨の答弁をしています。一度きりの話ではないですからそういう中では裏づけとなる財源がどうなのかと。そこになかなか踏み切れないというのは昨年のもう健全化のためにプランを立てたというようなことから、まずもって健全化に向けてどう対策していくかというのがまず第一でした。ただいろいろ諸問題と申しますか、今いわれるように少子化問題も含めてその1つの対策としての中学生までの医療費無料化とありますので、今計画の中でも27年度というようなことで位置づけた中で検討していきます。ただいわゆる手法として全面実施になるか段階的な実施になるかということを含め、それと先ほど前段でいきました財源の問題も含めて十分内部でも検討していきたいというふうに思っています。

○議長（山本浩平君） 14番、及川保議員。

〔14番 及川 保君登壇〕

○14番（及川 保君） 14番、及川です。今副町長のほうから前回は同じような答弁ではあったのですが、27年度へ向けて何とか実施に向けていきたいという捉え方でいいと思うのですけれども、若年層の問題というのはやっぱり再三申し上げているというように、まちとして喫緊の大変重要な問題だと私は捉えているのです。ですから今産業から医療のところまでいろいろお話ししましたが、まちづくりの中で全ての部門でやっぱり少子化問題というのは必ずそこで考えていかなければいけない。教育の部分でもそうであろうし、福祉の部分でもそうであろうし、全てにかかわっているという認識でぜひこの問題を捉えていただきたいというふうに思います。

それで次の子育て世代への住宅建築の応援の部分。状況はわかったのですが、今回は2件という状況です。昨年度よりふえているのです。ふやしてまたその幅を広げ、その状況をつくったにもかかわらず2件というのはどのような状況なのか。

○議長（山本浩平君） 本間産業経済課商工労働観光・営業戦略担当課長。

○産業経済課商工労働観光・営業戦略担当課長（本間 力君） 昨年の実績で3件ということで今年度につきましては8月末の募集期間をもって2件ということで答弁でも報告させていただきました。大きく土地をふやした部分は旭化成団地の分譲地、これは平成22年のときに旭化成さんから寄附いただいた土地でございます。今後はまた用地の担当とも整理して、これ以上ふやす状況とかある程度一定もともとと販売実績を売った中でふやすかふやさないかというところもあるのですが、まずもって石山地区のところについてはもっともって強化していきたいと思っています。これは若年層も含めてなのですが石山地区の土地に関してはそもそも移住事業としても当初から販売強化をかけていたところであり、そういうところからしても移住プロモーションには力を入れていきたいというところで、正直この1、2年は取り組みが弱かった事実もございますので、ことしは10月に北海道移住促進協議会とも連携させていただいて、そういったプロモーション活動を強化していきたいと思っています。

その捉えというところは実際にアンケート調査のデータからなのですが、団塊世代という比較的年齢層が高い方が過去の移住プロモーションで参加は出たいたのですけれども、アンケートでいきますと約3割の方が40歳以下という実態も出てきております。そういう意味では先ほど医療・福祉の部分もございましたけれども、やっぱり白老町のまちの全体のよさを通じながら最終的には住宅もそうなのですけれどもやはり雇用というものも求められる捉えもあります。そういう意味からも移住促進協議会を白老町で商工会と事務局を持たせてもらっていますが、事業者の中でもそういった雇用がその中で何かしら受け皿とかがしていただけないかどうかということも視野に入れてプロモーション活動を行っていきたくて思っておりますので、今後もそういった候補地これは一次産業の部分も期待できると思っております。そういったところで白老町に住んでいただいて生活を維持できるような取り組みも移住のほうからも進めていきたくて思っております。そういう意味では石山地区のほうはターゲットとしてはそういうところも強調していきたくて考えております。以上です。

○議長（山本浩平君） 14番、及川保議員。

〔14番 及川 保君登壇〕

○14番（及川 保君） 今実績としては大きな効果としては表れていないのですけれども、やはりこういったことも非常に重要な施策だというふうに私は考えるのです。今回こういう形で質問させていただきましたけれども、地方から女性が消える社会なんてとんでもない状況が将来見えるわけです。そういった中でまちづくりを進めるということは非常に大変なことではあるのだけれども、この状況を打破するということは多分不可能なのです。そうであるならばいかにして遅らせる、食いとめるということを念頭に置いてぜひまちづくりに専念していただきたいというふうに思います。

最後になりますけれども、成果としてはすぐには絶対結果は出てこないのだということをしかりと認識した中で他のまちよりも優れた施策を早く取り入れて、そしてすぐ結果を求めないで地道に進めていくしかないとは私はこのように思っています。町長、最後になりますけど少子化問題、人口減少問題このことについてこれから取り組まれていくその決意も含めて、さらに中学生までの医療費無料化も含めて総括的に答弁いただければと思います。

○議長（山本浩平君） 戸田町長。

○町長（戸田安彦君） 中学生までの医療費ですが先ほど副町長も答弁したとおり来年度に向けては今制度設計を始めているところでございますので来年度までに実施したいというふうに考えております。

少子化問題と人口減少の問題なのですが、何回も答えてはいるのですが企業誘致や地元の企業の発展そして子育て世代の環境づくり等々含めましてまた一層力を入れていきたいというふうに考えております。

先ほどの子育て世代と移住者の土地の話なのですが、ことしは今のところ2件、去年は3件なのですが私は小さいながらも成果はあったというふうに思っております。というのは何十年も塩漬けの土地でありましたので、そこにこういう事業を向けたところ合計5件の新築の家が建つということは地元の建設業界を初め産業にも寄与できていると思いますし、そこには町民がふえるということでもありますので少なからず評価をしたいというふうに思っておりますし、また実質はそんなにお金をかけないで案でございますのでこういう知恵をまた絞っていきたくて考えております。

○議長（山本浩平君） 以上をもちまして、14番、及川保議員の一般質問を終了いたします。